

令和6年度長久手市行政評価票（A票：事業評価表）						対象年度		令和5年度		
事業番号	65	事業名	せせらぎの径修繕事業 (大事業名) 緑道管理事業			担当課		みどりの推進課		
						予算区分（款-項-目-中事業）		7-4-3-5 せせらぎの径修繕事業		
						決算書ページ		185 ~ 一般		
I 基本情報	総合計画	基本目標	6	あえて歩いてみたくなるまち		事業開始の背景	令和3年度に水路部の老朽化を調査するため、調査・検討委託を発注。結果、施設の更新に相当の費用が掛かることから、水路を廃止する方針となった。その後、廃止した水路の上部利用について、地域住民の意見を聞きながら再整備を進める。			
		政策	2	暮らして心地よい生活環境の形成						
		施策	(2)	都市基盤施設の充実						
	その他	開始年度		令和3年度						
		終了予定年度		☒ 令和7年度	☐ 未定					
		根拠法令等		—						
	関連計画		—							
	アウトプット（詳細はⅡへ）						アウトカム（詳細はⅢへ）			
	事業の概要・目的	①事業概要 (どんな取組を行うのか)		②活動指標 (取組の進捗をはかるもの。 また、それがどうなるのか)		③中間成果 (①【対象】がどのような状態に変わるのか)		④最終成果 (大事業の将来像)		
		【対象】 ☒ 市民 ☐ 事業者 ☐ 職員 ☐ その他 対象の数： 60,000 【事業内容】 廃止した水路の上部利用について、地域住民の意見を聞きながら再整備を進める。		【アクションプラン指標】 整備延長【累計】		せせらぎの径を再整備することで、快適な歩行者導線を確保する。 (成果指標名) せせらぎの径上部利用の検討に関わった参加人数		せせらぎの径を再整備することで、利用者に憩いの空間を確保する。		

II 活動状況（アウトプットの詳細）	活動指標	活動指標名		単位	基準値（2018年） 目標値（2023年） ※AP指標のみ		区分	R5(2023) 年度	R6(2024) 年度	R7(2025) 年度	R8(2026) 年度	R9(2027) 年度	
		1	【アクションプラン事業】 整備延長【累計】	m	基準値	350	見込	-	-	350	-	-	
					目標値	350	実績	-					
		2			基準値		見込						
					目標値		実績						
		3			基準値		見込						
					目標値		実績						
		4			基準値		見込						
					目標値		実績						
	エピソード	事業開始からの経緯											
		令和２年度に水路部の経年劣化に伴い水が底を抜けて、水が流れない状況となった。水が抜けるとせ、せらぎの径の下部に空隙ができ陥没する危険性もあったため、ポンプの汲み上げを中止し、せせらぎの機能を一時中断した。 令和３年度に水路部の劣化状況を把握するため、調査・検討委託を発注。調査結果としては、大きな空隙はなく陥没の恐れはないことが判明したが、水路部を全て修繕した場合、相当額の費用が掛かることから、せせらぎの水路としての機能は廃止する方針となり、廃止になった水路の上部利用については、地域住民の意見を聞きながら検討を進めていくことになった。 令和４年度には、せせらぎの径上部利用の検討として、都市計画課の景観啓発事業を活用し、学生主催（事務局の学生４名）のワークショップを実施した。当日は、約１７０人の参加者があった。 令和５年度に上部利用に関する設計を発注。計３回のワークショップを踏まえ、施設全体の利活用方針を定め詳細設計まで完了。工事としては、令和７年度を予定。											
		R5(2023)年度 of 取組、改善したこと。目標が達成できなかった場合はその理由											
上部利用の設計方針を「当時水が流れていた風景を彷彿させるデザイン」をコンセプトとして、計３回のワークショップを実施。参加者としては、第１回１２名、第２回１２名、第３回１２名の計３６名の参加者があり、活発な意見交換を行った。													

Ⅲ 事業の成果・課題分析（アウトカムの詳細）	成果指標（CHECK）	成果指標名（中間成果をはかるもの）	単位	成果指標の推移と目標								
		せせらぎの径上部利用の検討に関わった参加人数	人数	3 年度		4 年度		【現状】 5 年度		6 年度		8 年度
				0		170		36		-		-
		成果達成状況					指標目標値の根拠					
		B	A. 想定より良い B. 想定どおり C. どちらともいえない D. 想定を下回っている					-				
	評価の理由、分析											
	令和5年度のワークショップ（意見交換）について、当初20人×3回=60人を想定していたが、実際は12人×3回=36人の結果となった。ただ、令和4年度のワークショップ（学生イベント）は、50人想定が170人の結果となった。総じて、想定通り進んでいると考える。											
	加える変化（ACTION）	今後の方向性（3年～5年先）		今後の方向性の理由								
		A	A. 現状維持 B. 拡充 C. 縮小 D. 廃止	令和7年度に再整備工事を実施予定。								
		改善ポイント ※今後の方向性がAの場合は記入不要 (成果指標を踏まえ、総合計画基本目標達成のため、必要性、有効性、効率性、公平性、歳入確保の観点等から見直しの余地のある取組を記入)										
見直しの余地のある取組名		見直しの方向性	理由及び具体的な見直しの内容							見直し可能年度		
1			☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止									

